

ベーリング海東部陸棚域における円石藻 *Emiliana huxleyi* ブルームはいつから発生するようになったのか？

Recent bloom event of coccolithophore, *Emiliana huxleyi* in the Bering Sea- Is it a signal of gradual global warming?

原田 尚美 [1]; Shin Kyung-Hoon[2]; 成田 尚史 [3]; 田中 教幸 [4]

Naomi Harada[1]; Kyung-Hoon Shin[2]; Hisashi Narita[3]; Noriyuki Tanaka[4]

[1] なし; [2] なし; [3] 東海大・海洋; [4] なし

[1] JAMSTEC, IORGC; [2] Dept. of Environ. Marine Sci., Hanyang Univ.; [3] Div. Oceanogr., Tokai Univ.; [4] IORGC, JAMSTEC

近年、ベーリング海東部陸棚域において円石藻 *Emiliana huxleyi* (*E. huxleyi*) ブルームの出現が人工衛星ならびに船舶により観測されてきた。特に SeaWiFS 画像による円石藻ブルームの検出により、月ごとといった時系列データが揃うようになり、1997 年以降の顕著なブルーム出現が明らかとなって来た。このように、1997 年以降突如として出現したかに見える *E. huxleyi* ブルームは、その発生の原因を探るために、栄養塩環境の変化や渦などの特殊な水塊構造変化との関係、基礎生産量変動など物理、生物、化学的な視点から本学会においても多くの研究成果が発表されてきた。本研究では、ベーリング海陸棚域北部に堆積した *E. huxleyi* のバイオマーカーであるアルケノン进行分析し、*E. huxleyi* ブルームは 1997 年以降の特徴的な現象なのか、或はそれ以前より発生していたのか、堆積物に記録された *E. huxleyi* のバイオマーカーであるアルケノンを過去に遡って分析した。その結果について報告する。